

令和6年度第1回 始良地区医師会・伊佐市医師会

地域医療連携部門会 実施報告

- 1 日時 令和6年8月21日(水)18:30~20:30
- 2 場所 始良地区医師会館, WEB 会議システム
- 3 共催 始良地区医師会, 伊佐市医師会, 鹿児島県保健福祉部保健医療福祉課
- 4 参加者 現地 18 機関, 29 名 , WEB 34機関, 調整会議委員1名
- 5 内容
 - (1) 説明
 - ・地域医療構想に係る「推進区域」に始良・伊佐区域が設定されたことについて
鹿児島県保健福祉部保健医療福祉課
 - ・始良・伊佐医療圏の現状
始良保健所長(兼)大口保健所長 山口文佳
 - (2) 講演「ポスト2025年を見据えた地域医療構想のあり方」
講師:産業医科大学 医学部 公衆衛生学教室 松田 晋哉 教授
※ 始良・伊佐圏域の地区分析から見えてきた今後の課題等について紹介される
 - (3) 質疑応答

6 参加者の感想・意見等 (研修後アンケート一部抜粋)

- ・ 始良伊佐地区で当院も一定の役割を担っていることがグラフ等で分かり、今後の在宅・介護施設との積極的な連携を進めていく必要性を痛感した。プライマリ・ケア医、有床診療所の重要性もよくわかり、在宅・介護施設同様に協力していきたい。
- ・ 地域医療「連携」のために中核病院を中心に地域で包括する医療・介護連携チームを創る必要あり。有床診療所やプライマリケアの診療所をどう維持させるか。始良と伊佐は分けて構想することでもよい。
- ・ きちんと分析して、当地区に合った地域医療構想を独自に立てても良いと感じた。
- ・ 地区診断の課題がためになった。病床数だけで考えない。地域の課題・連携を考える。
- ・ 介護サービスが増えないのであれば療養が多くてもいいのでは。有床で現在使われていない病床のピックアップから始める時、中心的な人が必要。
- ・ 地域の事情に応じた課題を整理して、具体的に解決しなければならない。問題に対してどの課題を達成することで解決できるのかを協議の上、列挙する必要がある。増える高齢者への医療をどのように機能分化していくか。
- ・ 地域医療連携を進めるためには互いの得意分野と不得意(対応できない)分野を示し、理解した上で、自院が地域で果たすべき役割を果たしていくことが大事であると考える。